



ABCジャパン

自己紹介

- 大学のゼミで日本に暮らす移民について学び、そのまま大学院へ進学
- 2012年、大学院生のとき（22歳）、足元で活動したいと思いABCジャパンに通い始める
- その後、2017年までABCジャパンで毎週2～3日ほどボランティア
- 外国ルーツの子どもの学習支援を中心に、大人の日本語教室の補助や多文化共生イベントなどにかかわる
- 現在は、ABC理事として、繁忙期（夏休みや11～2月）などに手伝いで入っているほか、事業運営の面で活動

ABCの活動にかかわったきっかけ

- もともと大学の中から移民に関心をもっていて、大学院に進学するときに、せっかくだから自宅（川崎市）の近くで長く活動したいと思った
- しかしいきなり団体に連絡をいれるのも敷居が高く、どこの団体がよいかもわからなかったなので、敷居が低そうだったつるみ国際交流ラウンジの夏休み宿題教室に参加
- そのなかでABCの人に見つけてもらい、ABCに誘われるように
- ABCには人づてで紹介されてくる大学生もとても多い（友達づてが多いが、大学の先生などから紹介される場合も）
- 現在はホームページを整備し、対外的な発信に力も入れている



活動内容

子どもの教育保障

ABCフリースクール
放課後学習支援
高校、大学進学・キャリアガイダンス

大人の自立支援

おとなの日本語教室
第2種電気工事士試験対策講座
電気工事士のための日本語教室
生活支援セミナー

コミュニティづくり

出張授業
研修・講演会
外国人の体験ワークショップ
イベント参加
多文化な各種教室

こころのサポート

大人のカウンセリング
こどものカウンセリング
ピアワーク

次世代へバトンタッチ

先輩・後輩の交流の場づくり
キャリア教育
ルーツを持つ国の言葉や
文化を学ぶ教室

+α

被災地支援
コロナ救援

ポルトガル語
Português

だいがく しんがく
大学進学ガイドブック

Guia de Ingresso na Universidade



見える？ 選べる！
しょうらい しごと

ポルトガル語
Português

将来の仕事MAP

Pode ver? Pode escolher!

Mapa das profissões do futuro



ABCの活動を続けることになった理由

- 大人にとっての「居場所」にもなる（とくに大学院生は、孤立しがち）
- 指導者というより「お兄さん」的な立場で子どもとかかわる場は、自分自身にとっての居場所に
- 教えることが「仕事」ではない雰囲気（友達とおしゃべりしにいく感覚に近い）
- 同年代の学生も多かったり、多様な背景の人がやってきたりしたことも、通いやすさにつながった

活動のなかで感じたこと

- 書籍では「移民やその子どもの困難」が強調されることが多い（もちろん、これはこれで意義あること）
- しかし一方で、移民やその子どもへの固定観念のようなものが形成されていく（自分とは異なる「他者」となっていく）
- 子どもたちと実際に対話していく中で、そうした固定観念は崩されていく
- 等身大の悩みをともに考える中で、「特別な」「特殊な」存在でないことを改めて知る →「共に生きる」存在になっていく